

令和6年度第2回豊田市学校給食センター運営委員会 議事概要

日時：令和7年1月31日（金） 午後2時から午後3時30分

場所：豊田市役所東庁舎 6階 教育委員会会議室

委員：

<参加者> 14名

委員長：田口 真穂（小中学校長代表）
副委員長：西原 理浩（小中学校長代表）
委員：土谷 美穂子（こども園園長代表）
糸 幸江（こども園園長代表）
佐々木 友梨（こども園保護者代表）
夏目 考祥（豊田市PTA連絡協議会代表）
高橋 絵里子（小中学校給食主任代表）
松崎 里香（小中学校給食主任代表）
森岡 高恵（栄養教諭・学校栄養職員代表）
重田 玲子（栄養教諭・学校栄養職員代表）
竹内 清美（豊田市保健所長）
富口 潤之輔（豊田加茂薬剤師会理事）
成田 美樹（市民公募委員）
神谷 雅之（市民公募委員）

<欠席者> 1名

委員：安藤 伯秋（豊田加茂学校保健会会長）

事務局：熊谷 明典（教育部副部長）
加藤 世明（保健給食課長）
吉野 奈美（保健給食課副課長）
加藤 由美子（保育課副主幹）
奥村 洋（保健給食課主査監）
近藤 邦博（保健給食課担当長）
近藤 裕介（保健給食課担当長）
田中 和佳奈（保健給食課主査）
藤田 和（保健給食課主事）

次第

- 1 あいさつ
- 2 委員長あいさつ
- 3 協議事項①：給食費無償化及び代替給付について
- 4 協議事項②：本市の学校給食について
- 5 協議事項③：給食食器の材質変更について
- 6 報告事項：学校給食における食物アレルギー対応の一部変更について、
給食への異物混入について、文部科学大臣表彰の受賞について

<要点>

協議事項① 給食費無償化及び代替給付について

給食費無償化による効果及び代替給付事業の実施状況、不登校児童生徒に対する取組などに対し、意見を伺った。

協議事項② 本市の学校給食について

給食費の現状と物価高騰への対応、栄養摂取の状況、食育推進の取組などを説明し、要望や意見を伺った。

協議事項③ 給食食器の材質変更について

給食食器について、これまでの導入経過と課題、今後の方向性に対し、意見を伺った。

報告事項

- (1) 学校給食における食物アレルギー対応の一部変更について
- (2) 給食への異物混入について
- (3) 文部科学大臣表彰の受賞について

それぞれの報告事項の詳細や対策について説明し、意見や感想を伺った。

議事の摘要

(協議事項① 給食費無償化及び代替給付について)

<意見・質問等>

委員 無償化になって、所属している学校の生徒たちは、「おいしい給食が無料で食べられるなんてうれしいね」と喜んでいる。

委員 担任しているクラスの児童たちは、給食が足りないくらい毎日よく食べている。無料で食べていることで、残菜があるともったいないという意識をもつようになっている。

委員 昨年度の運営委員会では給食費の値上げの話が出ていたが、なぜ一転して給食費無償化となったのか。無償化は恒久的な事業なのか。無償化はありがたいが、地元食材をもっと使ってほしい。すべての子どもに平等に支援をしてほしいので、不登校やフリースクールに通っている児童生徒への助成を検討してほしい。また、教職員は給食費を払っているのか。

事務局 給食費無償化は本市だけでなく、全国的な流れであり、研究と検討を重ねたうえで実施を決定した。本来は国が行うべき事業だが、無償化は引き続き実施していきたいと考えている。不登校児童生徒への支援については課題として感じており、給食の代替給付に限らず、不登校支援として総合的に行っていく必要がある。また、教職員については給食費を払っていただいている。

委員 不登校の子の親子試食会はとても良い取組だと感じる。

(協議事項② 本市の学校給食について)

<意見・質問等>

委員 豊田市では、入札により給食の野菜を決定しているそうだが、落札されなかった業者は野菜の出荷が保留になってしまうと聞いた。調達方法を入札から変更するなど、何か解決方法はないか。

事務局 野菜の調達について、なるべく豊田市産を優先しているものの、予算の関係上入札という方法をとっている。落札されなかった野菜の取扱いについては、課題であると感じているため、物資調達を担当している豊田市学校給食協会と解決策を検討中である。

委員 豊田市には 19 名の栄養教諭・学校栄養職員が在籍しており、管轄校で食に関する指導を行っている。コロナ禍が明けたことにより、保護者と直接コミュニケーションがとれる機会が増えたので、うれしく思っている。

委員 本校では、学校内で調理を行っているため、「顔が見える給食」が実施できており、学校全体で食育に取り組んでいる。

- 委員 所属しているこども園では、「楽しい給食」を心掛けながら、食事の際の姿勢・態度や食材について教えている。新型コロナウイルスの影響により、給食試食会がなくなったため、保護者からは復活を望む声が多い。
- 委員 試食会の存在を知らなかった。子どもが給食をおいしいと言っており、どんな給食か気になっているので、開催してもらえるとうれしい。また、小中学校では前を向いて給食を食べているそうだが、以前のようにみんなでグループになって一緒に食べられると良い。
- 事務局 無償化によって給食の質が落ちたのではないかと保護者の方が危惧することのないように、今後も質のいい給食を提供していく。どんな給食を提供しているか知ってもらうために、保護者の方にはぜひ試食会に参加していただきたい。また、スーパーで販売されている給食用のパンが人気を博していることもあって、給食への注目度の高さを感じている。インターネットでも給食のレシピを公開しているので、参考にしてほしい。
- 委員 特別栽培のじゃがいもを使用したコロツケを提供したとあるが、提供は年に1回か。有機栽培の農産物の使用回数を増やすことを検討してほしい。
- 事務局 じゃがいもの生産量が限られているので、コロツケは年1回の提供予定。豊田市は給食提供量が多いため、給食に使用できる規格を満たす有機栽培の野菜の量を確保するのは、困難である。有機栽培という栽培方法があることを、きちんと子供たちに伝えていきたい。
- 委員 栄養教諭に学校に来てもらい、食に関する指導を行っていただけるのは大変ありがたい。来年度もぜひ来ていただきたい。

(協議事項③ 給食食器の材質変更について)

<意見・質問等>

- 委員 食器が割れることは異物混入につながるため、割れにくい材質に変更するのは良い。労働安全面でも、給食センター職員は腰痛になる人が多いとのことなので、食器が軽くなるのは良い影響があるのではないかと。磁器食器を使用している給食センターとPEN食器を使用している給食センターで労災の件数を比較するとよい。

事務局 磁器食器を使用している東部給食センターと、PEN 食器を使用している北部給食センターで、食器取扱い時の怪我の件数を調べたところ、どちらも労災はなかった。しかし、食器の影響によるヒヤリハットの事例は、東部給食センターでは複数あったが、北部給食センターでは起こっていないことから、PEN 食器に変更することは、給食センターの調理員の安全につながると感じている。

委員 PEN 食器の耐久年数は8年とあるが、買替えの際は少しずつ変えるのか、それとも一気に変えるのか。また、壊れにくいとのことだが、予備を買ったり、汚れにより買替えが必要になったりするのか。

事務局 センターごとに一齐に食器の買替えを行う予定である。また、すでに PEN 食器を使用している給食センターからは、破損や汚れの報告は年に数枚しか受けていないので、予備の購入や一部買い替えたりすることは少ないと思われる。

委員 こども園では、給食の際に子どもたちに食器の持ち方を教えているが、磁器食器は重さが気になるので、軽い食器に変えていただくとありがたい。園で働く公務手からも食器が重いという意見を聞く。しかし、PEN 食器に汚れが残らないかが気になる。

事務局 磁器食器に比べて、PEN 食器に汚れが残りやすいということはない。しかし、樹脂製なので、経年による多少の変色が起こる可能性はある。

委員 学校で給食を食べている際に、子どもたちがお椀を持たずに食事している姿をよく目にする。きちんとお椀を持って正しい姿勢で食事するために、軽い食器への変更は良い取り組みだと思う。

委員 給食で使用している食器は高価なものなので、子どもたちには大切に使用してもらいたい。食器を使用後、処分する際はなにか再利用できないか、新食器導入の際にはぜひ考えてほしい。

事務局 使用後の食器をどう活用していくかは、導入までの間にしっかり考えたい。

(報告事項)

<意見・質問等>

委員 東部給食センターへの文部科学大臣表彰について、受賞することができてほっ

としている。県給食大会で受賞についての発表を行ったが、豊田市の自慢を凝縮した良い発表になった。今回の経験を活かし、今後も子どもたちによりよい給食を提供していきたい。

委員 限られた予算の中で、栄養素やカロリー等に気を遣って安心・安全な給食を作っているが、異物混入があるとその努力が台無しになってしまう。調理器具を選ぶ際は、異物混入が起こりにくいものを選んでほしい。

事務局 金属片はこどもの健康被害に直結するので、今後はさらに気を付けていきたい。メンテナンスのやり方や頻度、器具について慎重に検討を重ねていく。

委員 学校教育に携わる者として、給食のありがたみを日々感じている。「今日の給食は何だろう」と給食が子ども同士の会話にきっかけになっている。所属校では、今年度の前期から前を向いての給食をやめて、グループごとに給食を食べている。また、学校給食への栄養教諭の貢献ぶりに感謝しており、今後も素晴らしい給食を提供していただきたい。

事務局 給食費無償化は今年度の大きなテーマとなった。給食費無償化の議論を通じて「給食とは何か」を良く考える機会となった。今後も子どもたちにとってよりよい給食を提供していきたい。

委員 委員の意見を踏まえて、事務局は給食という事業をより良いものにしていただきたい。